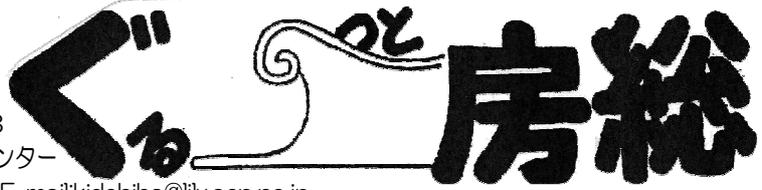


〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6  
サンコート新千葉102号

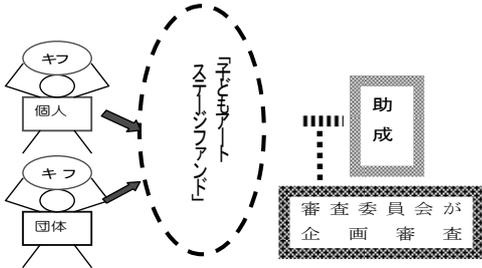
TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

2012年10月10日発行 第66号 1部100円 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp



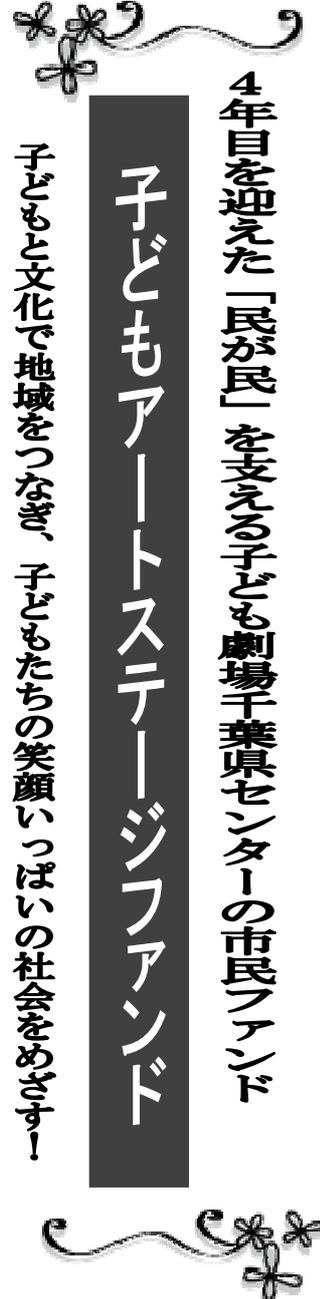
このファンドのしくみは



毎年6月公募。申請団体は、9月の審査会でのプレゼンテーション、審査を経て助成金が決定されます。事業完了後、4月に成果報告会を行っています。

子ども劇場が千葉県に誕生して40年。多くの方々がかわり、現在にたどり着きました。子どもの成長発達に欠かせない生の舞台芸術と出会う環境づくりを「子どもアートステージファンド」という形で応援しようと、子ども劇場千葉県センターが創設。目的は子どもと舞台芸術との出会いの機会を県内中にひろげ、その実現に向けて実施団体を財政的にサポートすることです。子どもの鑑賞にチャレンジし、子どもや地域社会に貢献しようとする団体を応援しています。

2009年4月創設、助成がスタート



4年目を迎えた「民が民」を支える子ども劇場千葉県センターの市民ファンド

子どもアートステージファンド

子どもと文化で地域をつなぎ、子どもたちの笑顔いっぱい社会をめざす！

2012年度は、県内7団体の助成が決定！

(特)市川子ども文化ステーション北地区  
父親の参加や働く母親とも連携する  
「どうぞのいす」

(特)いんざい子ども劇場  
父親の参加が全体の半数をめざしてチャレンジ  
「どうぞのいす」

千葉西おやこ劇場  
世代をまたいで交流する  
「ほんわかシアター」

(特)流山おやこ劇場  
子どもも大人も地域でつながり楽しくあそぶ  
「おまつりびーひやらどん」

(特)船橋子ども劇場  
子育て応援メッセ2012・inふなばしで  
「こいぬとこねこのゆきだるま」

(特)四街道こどもネットワーク  
地域に広げるプロセスを大切にする  
「おまえうまそうだな」

四街道こどもネットワークたまごキッズサークル  
サークルで取り組む乳児・幼児のための人形劇  
「こいぬとこねこはゆかいななま」



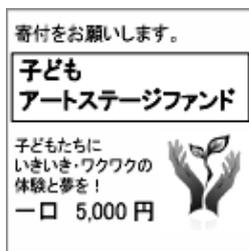
10月5日(金) 2012年度の助成が決定した7団体への「贈呈式」が賑々しく開かれました。審査委員から団体に対して、厳しくも温い、期待と応援する気持ちのこもったコメントを頂きました。当団体の岡田理事長より、1団体ずつ水引のかかった祝儀袋を渡し、市民ファンドにふさわしく、子どもも参加して笑顔いっぱいの「贈呈式」となりました。

これまでに のべ20団体に助成

県内各地で生の舞台公演を地域の連携で実施しています。

年度	寄付金実積(円)	助成団体数	公演数
2009年度	352,533	5団体	6ステージ
2010年度	285,560	5団体	5ステージ
2011年度	312,367	3団体	3ステージ
2012年度	240,000	7団体	7ステージ
合計	1,190,460	20団体	23ステージ

●「民が民を支える」新しい支援のしくみを、市民の手によって創る時代に入り、当団体でも独自の「市民ファンド」を設立しています。  
●地域の文化や子どもの育つ環境を豊かにしたいと思っている市民から、その“おもい”を寄付という形で賛同していただき、受けた当団体が誠実に実行しています。



1 子ども劇場千葉県センター <http://chiba.geki.jou.org/>参照

# 子どもと島生で語る情報発信！

子ども劇場千葉県センターではホームページ、ブログ、facebook、情報紙などで日常的に情報発信をしていますが、市町村行政訪問は、直接出会う情報交換の大変貴重なとりくみです。

「子どもや子育てに関する問題を一緒に解決していきましょう」と、事業の報告や提案、行政からの情報を聞き意見交換をしています。出会った職員は、子育て支援課、教育委員会、生涯学習課、NPO担当合わせて191人。行政の担当者が毎年のように変わりますが、訪問し続けることで、NPOへの一定の認知や理解を得ることができています。

## ◆確かな情報発信のグッズが揃っています◆

「チャイルドライン」や「ママパライン」は、毎年年度報告書を作成しています。行政訪問の際の大事なツールです。一目で理解してもらえらる事業案内や提案したいことをまとめ、連携したい事業は企画書という形にし、それぞれ見た目も美しく仕上げ持参します



子ども劇場千葉県センターが千葉県内すべての市町村の訪問を始めてから14年、今年度も7月～8月にかけて54すべての行政訪問を終了しました。

## ★子どもたちの声には関心があります★

今年度は、東日本大震災の県内の被災地である浦安市・旭市・銚子市・匝瑳市・東庄町・大網白里町の子どもたちへ重点的に、電話番号の入ったカード44、100枚を、また、市川市の全小学校と中学校へ、カード34、500枚を配布できたことにより、千葉県内すべての市町村教育委員会を通じて、子どもたちにカードを届けるルートが整いました。

チャイルドラインでは、中学生ぐらいの年齢の子からの電話が多いことや、性に関しての悩みや、氾濫する情報に振り回されている様子が多いこと等を伝えると、大変共感的に聴いていただけました。学校でも、子どもたちが性に関して学ぶ機会が少なという現状をお聞きしました。

被災地である旭市では、小学生が押し寄せる津波を目にし、心のケアが必要な子どもたちもいたようです。現在も仮設住宅から20人ぐらいの子どもたちが通学しているとのことでした。

## ●市町村の子育て情報紙への掲載が実現●

今年度はポスター1、210枚・カード52、130枚を届けることができました。毎年カードを配布していただくのはもちろんですが、市町村が発行する「子育てハンドブック」などの情報誌に、ママ

パラインの電話番号を掲載する、出生届けの際に渡すグッズにカードを入れる、母子手帳交付時に渡すなど、「確実に手元に届くにはどうしたらよいか」一緒に考え、工夫してくれるところが増えました。民間が開設している電話の良さを十分に伝えた結果です。

子育て支援課の担当職員は、保育士や保健師でもあり、子育て支援や虐待防止に取り組んでおられ、情報交換が大変スムーズでした。

## ■乳幼児の親子が舞台芸術に出会う機会を提案■

「0・1・2・3歳児と親のはじめのおしほい」は、子育て支援事業として県内全域に広め推進していきたい事業です。乳幼児の親子が安心して舞台に触れ、ママたちがホッとする場になることから、虐待の未然防止のモデル事業として、市町村行政での取り組みを提案しました。報告書にある作品のかわいらしさや子どもの笑顔、うれしそうなママの表情などから、その効果は十分に理解を得ることができましたが、優先的に予算がつけられず、すぐには実現できないというお返事がほとんどでした。

## ☆千葉県民活動基盤強化事業を広報☆

NPOの基盤を強化する「県民活動基盤強化事業」を、子ども劇場千葉県センターが千葉県から受託し講習会を開催しています。行政訪問と併せて、この事業の広報のため担当課へ出向き、地域で活動しているNPOへ「ぜひ参加を後押しし、活用してください！」と声掛けを依頼しました。

千葉県内には1,700を超えるNPO法人があり、そのうち500団体は発足1年～3年未満の団体です。志をもって発足したNPOが地域にしっかりと根を張り、社会から信頼され持続して社会に貢献していくことが求められています。そのためには団体の基盤を強化していくことが重要です。今回、日常的に組織の役に立ち、NPOの基盤を強化する「県民活動基盤強化事業」を子ども劇場千葉県センターが千葉県から受託し講習会を開催しています。

発足1年～3年未満の500団体に向けて、ご案内はがきの送付と電話大作戦で講習会への参加を呼びかけ38団体の申し込みがありました。NPOをよく熟知した講師陣の指導のもと、情報発信の大切さ、パソコンを使ってfacebookの作成や、ちばのWAポータルサイトへの登録に挑戦、会計の基本・活動計算書・貸借対照表作成と、賢明に取り組んでいます。

毎回複数で参加されている団体もあり、「facebookのいいね！ボタンの威力を認識した」「適切なご指導のお陰で★4つになった。バンザイ！（ちばのWA登録）」「法人として大切な会計の目的・原則等についてと複式簿記が不可欠であることがよくわかった」「活動計算書と貸借対照表の関係が理解でき作成できた」「会計について全く0で全て良い勉強になった」等のアンケートが寄せられています。やり遂げた達成感で、すがすがしい表情で帰られた方々、全体に学ぶ意欲はとて高く、発足1年～3年未満NPOの基盤強化につながっています。

平成24年度千葉県県民活動促進事業「県民活動基盤強化事業」子ども劇場千葉県センター受託

主に設立後1年～3年を経過したNPO法人を対象とした



# NPOの基本的な基盤を強化する講習会を開催中！

## 第1回

**NPOにとって強い味方になる  
情報発信**

講師：(株)トライワープ代表  
虎岩雅明

【千葉市会場】

日時：8月30日(木)13:00～16:30

場所：千葉市民会館 第1・2会議室

【流山市会場】

日時：8月31日(金)13:00～16:30

場所：流山市民活動推進センター  
大会議室

●事業説明とオリエンテーションがあります

## 第2回

**パソコンを使って  
facebook やブログ等を  
はじめよう！**

講師：(株)トライワープ  
湯浅寛美 糸井裕香子

【千葉市会場】

日時：9月13日(木)10:30～16:30

場所：(株)トライワープパソコン教室

日時：9月20日(木)10:30～16:30

場所：(株)トライワープパソコン教室

## 第3回

**NPOの信頼性の向上に  
つながる情報開示**

**パソコンを使ってちばのWA！  
ポータルサイトへの登録**

講師：(特)NPOクラブ  
志村はるみ 鍋島洋子

【千葉市会場】

日時：9月12日(水)13:00～16:30

9月18日(火)13:00～16:30

9月25日(火)13:00～16:30

場所：千葉市生涯学習センター  
地下1F パソコン学習室

## 第4回

＜会計の基礎編と会計処理の実際＞  
**会計の日常処理・帳簿記帳  
決算処理・所轄庁への提出書類**  
講師：税理士 加藤達郎

**複式簿記を実際にやってみよう！**

講師：(特)NPOクラブ  
加藤達郎 伊庭洋司 田沼淳子

【流山市会場】

日時：9月24日(月)10:30～16:30

場所：流山市生涯学習センター A101

【千葉市会場】

日時：9月26日(水)10:30～16:30

場所：千葉市民会館 第1・2会議室

## 第5回

＜NPO法改正とNPO会計基準のマスター＞  
**NPO法改正の内容とNPO会計  
基準の趣旨と概要 税務**  
講師：税理士 加藤達郎

**活動計算書・貸借対照表・注記を  
つくってみよう！**

講師：(特)NPOクラブ  
加藤達郎 伊庭洋司 田沼淳子

【流山市会場】

日時：10月11日(木)10:30～16:30

場所：流山市民活動推進センター  
大会議室

【千葉市会場】

日時：10月12日(金)10:30～16:30

場所：千葉市民会館 第3・4会議室

## 第6回

＜NPOのリスク管理＞  
**安心して活動するために  
NPOでのリスク管理を学ぼう**  
講師：社会保険労務士 石井敏則

【千葉市会場】

日時：11月5日(月)10:00～15:30

場所：千葉市民会館 第1・2会議室

【流山市会場】

日時：11月6日(火)10:00～15:30

場所：流山市民活動推進センター  
大会議室

●支援対象団体(参加団体)へのヒアリングを行います。



コーディネーターとは、調整する人という意味です。異なる要素や主体を出会い、組み合わせ、人や団体を温かく強くつなぎます。特に「子ども」や「子育て」に関わるコーディネーターは、子どもや子育ての課題をリアルに捉え、その課題解決のために「ワクワクとしたあそび心」をもって地域社会やコミュニティに貢献し、個人や団体の活力を最大限に引き出しながら、子どもや子育ての環境を変えていく人でもあります。今号では、子ども劇場千葉県センターの比較的身近な事業を5つのカテゴリーに分け、「コーディネーターとは何か」を抽出しました。

## ○子ども劇場千葉県センターがとりくむ課題を、今現在はどのように定義しています。

子ども期は、おとなになるための大切な準備期間であり、人生に二度とない、遊んで育つ大切な時代である。しかし、必要な環境としての「空間」「時間」「仲間」は、都市化、忙しさ、少子化、あそびツールの変容などが原因で狭められ、とことん遊びこむことが細ってきている。

子ども劇場千葉県センターは、子どもの発達権を保障する環境づくりを、チャンスをはたかき具現化していく課題もっている。依拠するのは、子どもの権利条約第31条「ゆっくり休み、あそび、豊かな文化に参加する権利」である。

その課題をなぜ地域でやるのか。それはそこに子どもがいるからで、私たちは、どの事業においても子どもの主体的参加や子育て世代応援の目線をもって、文化や芸術を通じて地域をつむぎ、子どもを守る市民社会をつくっていきたく願っている。

## 村上北小学校 放課後子ども教室「放課後わくわくクラブ」のコーディネーター

八千代市より、村上北小学校の「放課後子ども教室」の運営を委託された子ども劇場千葉県センターは、子どもネット八千代の会員、地域の若者やボランティアの協力も得ながら、2011年度61日、2012年度121日開設しています。コーディネーターの役割は、八千代市ととり交わした仕様書の中に書かれ数で評価されています。

### ※その中での課題

①地域に投げかけをしているのにボランティアが集まらないこと。人材確保のために、もっと地域や保護者への理解促進が必要なこと ②参加している子どもたちの集団の中で日々起こること、また起こったことを受けとめる親へのスタッフへのキメこまかな対応のありかたが試されていること。

### ※解決への方策

①漠然としたボランティアより、技を持ったボランティアを募る方が効果的。最近では、ボランティアによる将棋、よみきかせ、カードボードゲーム等が始まりだんだん充実してきました ②場所が学校の空き教室であることから、子ども集団の中で起こったことの相談、クレーム、希望のほとんどが保護者から学校に行きます。コーディネーターは、起きたことの現状把握と学校へ説明、先生方との交流、スタッフの在り方の学習、担当課「元氣こども課」との情報共有など、対応に日々追われながらもがんばっています。

### ※コーディネーターとして日々求められること

立場が違えば子どもの捉え方が皆違います。違いを当たり前と捉え一致点を見つけ、楽しむゆとりが生まれるまでには時間がかかりますが、コミュニケーションの機会を、省略しないでいねいにつくっていきます。ケンカをしても次の日もやってくる子どもの笑顔や元気な声は、コーディネーターやスタッフの「元気の素」です。

## 子ども文化地域コーディネーター ■文化芸術を通じて子ども・地域を紡ぎ市民社会をつくる

学校では文化庁の「次代を担う子どもの文化体験事業」が、平成22年度が県内で66校(県内全小中学校の5.3%)。平成23年度は78校、平成24年度は82校でとりくまれています。また、千葉県の「伝統芸能ふれあい体験事業」「音楽鑑賞事業」は、96校(県内全小中学校の7.7%)でとりくまれています。

### ※成果の問い直しの必要性

これまで子ども劇場では、学校公演の実施数や内容の不十分さを問題視してきました。子ども劇場が各市において、鑑賞活動に取り組んでいることが、子どもの権利条約31条、子どもの文化的権利の実現、子どもの舞台芸術との出会い体験にどのような成果をあげてきているのかを問い直す必要があります。

### ※子ども文化地域コーディネーターとは

①子ども文化地域コーディネーターは、地域を良くしようと思う人です。組織の看板を背負っていてもコーディネーターの仕事をする時は、組織の利益を最優先するのではなく、地域を良くする、その地域の子どものための最善の利益を考える人です。②子ども文化地域コーディネーターは、同じ地域で暮らす人と手をつなぎ、ネットワークする人です。最後まで投げ出さずに覚悟を決めてとりくむ人です。③子ども文化地域コーディネーターは、文化芸術の力を心から信頼し、地域の様々な分野の人、多くのニーズに対するアンテナをもち、子どもに関する専門性を持つ人です。

## 地域・コミュニティ・コーディネーター ■子どもをとりまく地域の場合

0歳から若者までの全ての子どもが豊かに成長・発達するためには地域のコミュニティ力が欠かせません。各地域のコミュニティの崩壊がさまざまな課題を生み出しています。子どもや若者の未来のために、地域で暮らす人々が自らの生活の場に関わりを持ち、コミュニティづくりに参加できるよう、持っているスキルや知恵を、おしみにくく提供し、お世話やきや粹なおせっかいをする人が必要です。

※地域を目が輝く子どもの笑顔でいっぱいになりたい、子どもや子育て世代を受け入れる地域にしたい等、こうありたいという姿を思い描き、揺るがないことです。

※自分の住んでいる周りに目を向けると課題が見えてきます。PTA や子ども会、サークル活動など活発に活動している人と、つながりの希薄な人やつながっているようでも本音で付き合いえず孤独を感じている人との二極化、子どもがお客さんになっていて主体的に参加できていないもったいないイベント、わが子の期待が大きくてすぐに結果を求める親…。地域の子どもや子育ての課題は身近なところにあります。

※自分にできることは何か？ 一緒に動く人を見つけ、つなげます。相手を知り友達になり、話しをしましょう。仲間として一緒に企画を立て、成功までのプロセスを楽しんですすめられるように、コーディネーターは、意見を多面的に受け入れます。子どもでも大人でも同じです。誰を元気にするか視点をはずさず、やってよかったと思えるようにリードします。

## 地域と病院をつなぐコーディネーター ■長期入院の子どもに笑顔の贈り物を届ける活動の場合

長期入院を余儀なくされている子どもたちは、日々辛い治療に向き合い、何もすることがない・できない屈な時間を病院内で過ごしています。子どもたちがとびきりの笑顔になり、付き添う保護者がホッとした時間をもてるように、小児病棟にパフォーマンスやワークショップを届ける活動を始めて5年、延べ33病院2,084人の子どもたちに届け、病院近くの地域には専門性をもったコーディネーターが生まれています。

### ※病院と地域の信頼を築くコーディネーター

長期入院をしている子どもたちがいる病院に、電話や訪問により病院とのコンタクトを取り、病院側の窓口を担うキーパーソンにたどり着くことから始まります。病院側からすると、会ったこともないNPOからの突然の話を理解するのは大変なことで、確かなNPOのミッション、真摯な姿勢 説明能力が試されます。

### ※実施の打ち合わせから当日までをコーディネートする

実施する病院を訪問します。入院している子どもたちの様子やニーズ把握、課題があれば解決策を見つけて提案し、忙しい病院スタッフに負担をかけないよう、また、実施への不安感がないよういっしょに最善の準備をします。この段階を雑にすると、一瞬にして信頼を失い、二度とその病院での実施ができなくなるばかりか、事業そのものやNPOへの信頼を失います。

### ※病院のニーズに合ったパフォーマーをコーディネートする

プロによる、またはプロ並みのスキルを持った人をコーディネートします。子どもたちの笑顔や満足度は、作品の力によるところが大きく、パフォーマーとの綿密なうち合わせや公演環境条件の共有化が必要です。

※病院というデリケートな場での活動であること、様々なプライバシーを心得ること、リスクを予測して対応すること、経験を過信しないこと、毎回緊張感を持って周到に準備をし、当日は気持ちのゆとりをもって笑顔で子どもたちを迎えるようにします。

## ボランティア・コーディネーター ■チャイルドライン・ママパパラインの場合

チャイルドラインとママパパラインには、合わせて100名の電話を受ける傾聴ボランティア（受け手・支え手）がいます。ボランティアの方々がいてこそラインを継続して開設でき、その存在を大切にするために、スタッフである担当理事はきめ細やかなコーディネートが欠かせません。

※ボランティアの方々の志や個性を尊重し、ボランティアにとって、このラインに関わるのが誇りであること、そこでの出会いが生活を豊かにしていることにつながっていくように心を砕きます。

※気持ちのいい信頼関係のある集団や環境でこそ、かけてきた方の気持ちを充分受け止めることができます。ボランティアと共に、信頼と調和のとれた温かい関係を創り育て励ましていきます。

※ボランティアの研修時間は年間20時間を基本としていますが、研修を義務としてこなすのではなく、ボランティアのニーズを聴き、「休まず参加しよう」と思え、個々の豊かさにつながる内容を計画します。

※子どもや子育ての状況や情報の共有化も必要です。継続により事業がマンネリ化し色あせていかないためにも、事業の目的、新たな社会の課題、社会からの評価等を、ボランティアと共に共有します。

※ボランティアもコーディネーターも共に、このラインにかかわることが自己実現や自己改革につながり、住んでいる地域でも子どもや子育てに関心を持ち、応援者の1人になっていく姿を描いています。



# 児童虐待ゼロへ ～千葉県行政のとりくみ紹介～

全国の児童相談所の相談対応件数は、毎年過去最多を更新し続けています。何の罪もない子どもの人権を踏みこじめる児童虐待。暴行や暴言、性的虐待、育児放棄…。

千葉県も例外ではありません。平成 23 年度は 2,960 件の虐待が報告され過去最多。この 10 年で 3 倍に増えています。平成 22 年には柏市で、親から食事を与えられず 2 歳 10 ヶ月の男児が餓死するという痛ましい事件が起きました。平成 24 年 6 月には繰り返し暴行を加えたとして母親らが逮捕されました。

## ●千葉県児童相談所における相談対応件数の推移 (平成 24 年 6 月 22 日現在) 千葉県要保護児童対策協議会資料より

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
全国	33,408	34,472	37,323	40,639	42,664	44,211	55,154	—
千葉県・千葉市	1,330	1,495	1,559	1,980	2,745	2,655	2,958	2,960
千葉県のみ	1,117	1,238	1,287	1,616	2,339	2,295	2,552	2,388

千葉県は、虐待ゼロを目指して、本年度から現職の警官を児童相談所に配置するなどの対策をとり始めました。現場経験がある警官が虐待の有無を見分け、重大な虐待を未然に防ぐのがねらいです。千葉県児童家庭課に 1 名、中央児相に 1 名、市川と柏の児相に各 1 名、千葉市児相に 1 名置いています。下記の表にもあるように、児童から直接通告もあります。

## ●児童虐待の状況 (千葉県警察本部少年課)

	平成 23 年	平成 22 年	前年比
検挙件数	19	19	0
検挙人数	22	22	0
被害児童数	19	19	0
(内死亡数)	(2)	(1)	1

(千葉県要保護児童対策協議会資料より)

## ●児童相談所への児童からの通告状況

	平成 23 年	平成 22 年	前年比
児童通告人数	582	589	-7
身体的虐待	215	226	-11
性的虐待	12	4	8
ネグレクト	81	55	26
心理的虐待	274	304	-30

# 若者の悩みに一括対応

## ～千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」を開設～

千葉県では、ひきこもりや不登校など若者がかかえる様々な問題に対応するため、どこに相談したらよいか分からなくなっている子ども・若者やそのご家族が、まず最初に相談できる窓口として、7月27日、千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」を開設しました。主に電話やインターネットのwebサイトで相談を受け付け、関係機関への橋渡しもします。これまで分野ごとの縦割り体制に弊害があり、一括して悩みに応じる総合的な窓口を一本化することにより、たらい回しを防いでいくことをめざしています。

**電話相談番号:043-301-2550 火曜日～金曜日 午前 10 時～午後 5 時**

WEB サイトアドレス <http://www.lighthouse.pref.chiba.lg.jp>

相談受付専用メールアドレス [lighthouse@abeam.ocn.ne.jp](mailto:lighthouse@abeam.ocn.ne.jp) ※電話受付時間外の対応用

**子ども専用電話 チャイルドライン千葉 0120-99-7777** 月曜日～土曜日 16:00～21:00

**養育者のための ママパパラインちば 043-204-9390** 毎週金曜日 10:00～16:00

(特) 子ども劇場千葉県センターが開設しています。お気軽におかけください。





## 地域をげんきにし、新しい出会いのために

四街道市みんなで地域づくりコーディネーター 毛見文枝

四街道市みんなで地域づくりセンターは地域が元気になるための、市民「みんな」の拠点となるべく、2年前にオープンしました。センター機能としては協働コーディネーター、地域づくりの情報収集・提供、相談に応じる、団体の活動を応援するなどです。

地域課題について、地域づくりを担う個人や団体に働きかけ、解決に向けた取り組みや支援を形にし、団体同士の連携や情報交換や交流も支援、地域づくりに関わるみなさんが活用できるように、団体へのヒアリングや調査をし、正確な情報を収集し、みんなで地域づくりニュース(各月発行)やメールマガジン、ブログ、フェイスブックなどを通して発信しています。

私がNPOクラブの一員として「四街道市みんなで地域づくりセンター」のコーディネーターとして働きかけとなったのが「市政だより」でした。定年退職し、それまでほとんど四街道のことを知らずにいましたが、時間の余裕ができ、というよりヒマでしたから市政だよりを隅から隅まで読んでいました。その中で「地域づくりリーダー養成講座」の募集を見つけて面白そうだと思い応募し、受講後、市からコーディネーター業務を受託したNPOクラブの採用面接をうけたのです。

何にもわからずに入ったコーディネーターの仕事は五里霧中の世界でしたが、周囲の人々の温かい指導のお蔭で今日を迎えることができました。私のように、何かをしたい方の行動を起こすきっかけ作りをすることができれば良いと思っています。ヒアリングをさせて頂いた方々等と情報の交換をしながら、より住み良い四街道になるように「自分にできることを無理なく楽しく」今日も新しい出会いの機会を求めて楽しんでいます。

地域の課題を解決するヒントを提供したいと、センターでは、「ボランティアと市民活動団体のマッチング」、「自治会情報交換会」、「子育て支援団体交流会」、「子ども記者養成講座」、「作っちゃおう!ご当地グルメ」「地域づくりリーダー養成講座」等の地域づくりサロンや講座を開催して幅広い方々に情報を発信しています。

子ども劇場さんは子どもの関連の活動だけではなく、広くNPOの活動のための講座など積極的にされています。これからも私たちの活動のための情報の発信をお願いいたします。

## 私からのメッセージ



### 子どもが笑顔になるプレゼント ～歌で心をひとつに～

千葉県千葉リハビリテーションセンター 総合療育センター 療育指導部 三橋幸子

千葉県千葉リハビリテーションセンター小児部門は、障害者自立支援法と児童福祉法の改正に伴い組織の改編を行い、通園事業と相談支援事業を加えた総合療育センターを新設いたしました。入所事業においては、従来の肢体不自由児施設「愛育園」と重症心身障害児施設「陽育園」が統合され医療型障害児入所施設「愛育園」として再スタートしました。

「誰もが街で暮らすために」千葉リハビリテーションセンターの基本理念です。今をより良く生きるための選択肢の一つとして施設での生活があります。その施設が地域から切り離された閉鎖的なものとならないよう、いかに、地域と繋がるか・・・を考えることがセンターの理念の実現だと考えております。

そのような中、この度子ども劇場千葉県センターの皆さんから頂いた「病院と地域をつなぐ～子どもが笑顔になるプレゼント～」はまさに、理念の実現に向かう大きな一歩となりました。「タケダ・ウエル

ビーイング・プログラム2011」から、パフォーマーの方を選択するときも、施設を利用している方々の笑顔の思い浮かべながらの楽しいひと時でした。更に、パフォーマーの方を含め、子ども劇場の皆さんとの打ち合わせは、私たちのために最高のプレゼントをして下さろうとする熱意がひしひし伝わるものでした。

コンサート当日、頂いたチケットを持ちホールに集合、生で聞くピアノ演奏と心地よい歌声に、大ホールは子ども達の熱気であふれ、1曲歌が終わるごとに、皆の心が一つになって行くことを実感せずにはいられませんでした。通園を利用されている保護者の方々もきっと、「子育てをしているからこそ今、この楽しい時間がある」と感じて頂けたと思っております。施設の利用者全員が地域社会の一員として存在していかれるよう、そのかけ橋としてボランティアの方々の力を積極的にお借りするための体制作りの必要性を強く感じる機会を頂きました。

## 「共に生きよう！」の気持ちでつながった子どもたち

8月2/3/4日 東松島の小学生中学生及び小学生の保護者 22人  
8月2日 青少年会館 馬橋北放課後児童クラブ 松戸の子ども40人 市民ボランティア38人  
8月3日 東京ディズニーランド 市民ボランティア17人  
8月4日 バスで都内遊覧後帰途へ

### 認定NPO法人ふれあいネットまつど・NPO法人 子どもっとまつどの共同開催で実現！

ふれあいネットまつどは高齢者・障がい者福祉に取り組むNPOです。子どもっとまつどとの関わりは「異分野で活動する団体相互の強みをいかすコラボレーション事業」としての車いすの元パティシエが講師の「私もパティシエ？」や視覚障がい者が講師の点字教室「未来っ子点てん」の実施を通じてです。

- 3.11の東日本大震災の支援活動として、ふれあいネットまつどが宮城県、東松島の仮設住宅に出向き、パラソルカフェを開催、仮設住宅の皆さんと懇談する中で、「子どもたちが自由にのびのびと生活できない」「子どもたちをどこかに連れて行ってやりたい」という親ごさんの声がきこえてきました。そこで、
- ①仮設住宅の生活を強いられている東松島の子どもたちに楽しい夏休み体験を！
  - ②被災地の子どもとの交流を通じて松戸の子どもが被災地へ寄せる心を育みたい
- この二つの目的で、子どもっとまつどに共同での開催の申し入れがあったのです。



悩んだのは、初対面の松戸と東松島の子どもたちがうちとけるにはどうしたらいいのかということ

表現あそびの「風光舎」ただじゅんさんに相談。大道芸の一糸堂さんと山猫軒さんを紹介していただき、青少年会館を会場にして、同じ敷地内にある放課後児童クラブの子どもたちと一緒に、大道芸の鑑賞とバルー

ンアートのワークショップを体験し、終了後放課後児童クラブに移動しておやつを食べ、歌のお姉さんをお願いして、みんなで歌を歌うプログラムをつくりました。2日目はディズニーランド、3日目はバスで都内遊覧という2泊3日のプランでした。

そのためにボランティアを目標30人集めることも担当しました。チラシをもって市内の大学、高校、中学校に趣旨の説明に回り、22名が参加してくれました。一方で、事前に放課後児童クラブの子どもたち、ボランティア対象に「被災の状況と現状」の説明会を開きました。

### 猛暑の体育館で「まだかまだか」と東松島の子どもたちの到着を待った子どもたち！

8月2日当日は、高速道路の事故渋滞で到着が1時間30分遅れるハプニングがあり、子どもたちがパフォーマンスや学生ボランティアの皆さんと触れ合いながら待つか、待ちに待ったバスが到着。最初は緊張気味の東松島の子どもたちが、みんなとふれあううちにだんだん「〇〇ちゃんが少し笑った」「あっ△△君が少しずつ前に出てきてるよ」「□□君がとなりの子とじゃれあっている！」と、同伴した親ごさんも驚くほど子どもたちが楽しそうで、嬉しかったです。

第2会場の児童クラブでの子どもたちの透き通るような歌声に、親御さんの目に涙がうかび、私たちももらい泣きしてしまいました。帰りのバスに向かって松戸の子どもたちも「また来てね!!」「また遊ぼうね!」と力いっぱい手を振っていました。

### 同伴した東松島の親ごさんからのメッセージ

『さよならをすることがとても淋しくて、「ありがとう」を言うのが精いっぱいでした。去年はつらい思いや怖い思いをたくさんしてきた子どもたちですが、こうやって、皆さんに会えてこんなに楽しい時間を共有できたことは、乗り越えてきたことへの、みんなからのご褒美と話しています。本当にありがとうございました。また、一つ一つゆっくり前に進みます。頑張ります。皆さんの笑顔をずっと忘れません。』

( <特>子どもっとまつど 渡辺洋子 記 )

### 編集後記



私たちの活動に欠かせない「コーディネーター」。人や団体を繋いだり、一緒に事業を創ったりたくさんの役割を持っていますが、コーディネートに決して同じ形はなく、地域課題を捉えずに進めていくことは大変なことに違いない。でもだからこそ「おもしろい」。地域の子どもたちの笑顔を見るために頑張れるのですね。 棚田純子